

次世代経営者錬成講座

開設趣旨書
講座概要
実施要領

(株) 日 本 経 営 開 発 研 究 所

〒105-0022

東京都港区海岸1-2-20汐留ビルディング3階

電 話 東京（03）6721-8607番（代表）

FAX 東京（03）6735-4607番

H P <http://www.nihon-keieikaihatsu.co.jp>

e-mail info@nihon-keieikaihatsu.co.jp



*より詳細な問合せは上記に

次世代経営者錬成講座開設趣旨

(株)日本経営開発研究所

今や全世界が実質的に自由主義経済化し、企業間競争は世界規模で行われるようになりました。また、国内だけに目を向けても、人口減少により、今までと同じやり方をしているだけでは売上が減少することは確実です。一方で少子化の影響を受け、人手不足が深刻化するとともに、コストとしての人件費は確実に上昇していきます。このような環境の中で日本企業はどのように戦っていけばよいのでしょうか。そして経営者は、どのようにして自社が存続発展していくための道筋を組み立て、そして社員に示していけばよいのでしょうか？

また、東芝、日産、神戸製鋼と、近年、「一流」と言われていた企業において、不祥事が次々と明るみに出てきています。なぜ、このような事が起きるのでしょうか。そして、経営者はどうすればこのような不祥事が起きない企業風土を作り上げることができるのでしょうか？

旧慣墨守の退嬰的経営では時代の急展開の前に取り残されることは必至です。社会の公器として、小手先の利益創出手段に頼ることなく、これからの時代に向け飛躍しうる革新的経営をいかに実現するかが問われています。

そして、この問いに答えうるか否かは、経営の任にあたる経営トップ陣の情熱と能力のいかににかかっていることは言うまでもありません。

格言に曰く 「一人に以て国は興り、一人に以て国は滅ぶ」と。

そして、経営の「存続」を考えると、最も根本的な課題は次世代の経営トップを着実に育成していくことにあると思います。

ここに開設する「次世代経営者錬成講座」は、

1. 次の世代に経営の全責任を負う経営トップ陣の候補者を対象として
 2. 「世界のなかの日本のあり方」「これからの日本の経営のあり方」「企業観・職務観」を検討し、
 3. 経営トップのあり方とその持つべき要件を明確にし、
 4. 経営トップ陣候補者として、その要件をどうやって身につけるか、
- をできるだけ理論的・具体的に研修せんとするものです。

貴社より、これからの経営陣たることを期待される候補者を御派遣いただき研修の成果をあげ、貴社の経営革新と戦力強化並びに次世代経営への着実な移行準備のお役に立てば幸いです。

(注) 本講座は、上級管理者を対象とした「一流管理職錬成講座」(1999年迄に13回開催 — 一週間合宿コース、二週間コースとして設定した時からは23回開催)、並びに次世代経営幹部並びにその候補者を対象とした「次世代経営幹部錬成講座」(1996年度に発足し、1999年迄に4回開催—前後期3泊4日合宿プラス中間の通信講座コース)を併合しつつ再編成し、将来の経営陣たることを期待される部長職以上の社員を対象として新設した講座(合宿コース)です。

尚、本研修は(株)日本経営開発研究所が今日まで約延べ百回ほど実施した「錬成講座」の成果を集大成した実践的トップセミナーとしての最上級のコースです。

2017年(平成29年)11月

次世代経営者錬成講座 基本プログラム

合宿研修前 約 1 ヶ月間	<u>事前宿題</u> 課題図書「企業および企業人」精読・ケーススタディ事前検討・各種アセスメント・自己史作成
------------------	--

	午 前	午 後	夜
第 1 日 (日)	昼 集 合	<u>オリエンテーション講義</u> 「これからの日本の 経営幹部のあり方」 <u>講義・MDP</u> 「これからの企業環境、 これからの世界・日本」①	<u>グループ</u> <u>ディスカッション</u> 「これからの日本の 経営のあり方」
第 2 日 (月)	<u>グループ</u> <u>ディスカッション全体討議</u> 発表・質疑・コメント <u>講義・MDP</u> 「これからの企業環境、 これからの世界・日本」②	<u>講義・演習</u> 「経営数字の見方」 (ケーススタディー)	<u>グループ</u> <u>ディスカッション</u> 「倒産ケーススタディー」
第 3 日 (火)	<u>グループ</u> <u>ディスカッション全体討議</u> 発表・質疑・コメント	<u>MDP</u> 「これからの経営のあり方」	<u>グループ</u> <u>ディスカッション</u> 「SPK の経営革新から 何を学ぶか」
第 4 日 (水)	<u>グループ</u> <u>ディスカッション全体討議</u> 発表・質疑・コメント <u>講義・演習</u> 「これからの経営者としての 自分のあり方」①	<u>講義・演習</u> 「これからの経営者としての 自分のあり方」② <u>講義</u> 「経営者の持つべき要件と その能力向上法」	<u>論文作成</u> 「わが社の経営の基本課題 ・解決方向と私の任務」 <u>目標設定</u> 「一流経営者に向けた 3 ヶ月後のありたい姿」
第 5 日 (木)	<u>論文発表</u> 質疑・コメント <u>終講式</u> 終了スピーチ・終了講義	昼食後解散	

(注－１) プログラムの一部を変更する場合がありますので、ご了承下さい。

合宿研修後 3 ヶ月間	<u>コーチングセッション</u> 合宿研修で設定した「3 ヶ月後のありたい姿」をテーマに、月 2 回、3 ヶ月間にわたりコーチングセッション（1 回 60 分）を行い、目標達成や行動の習慣化のためのフォローアップを行います。 セッションは原則、電話で行います。（マイク付きイヤホンを提供・通信費は弊社負担） セッション時以外でも、コーチングのテーマに関してはメールによる相談対応を行います。
----------------	---

(注－２) セッションの日時は、合宿研修終了後に受講生本人と調整の上、6 回分を予め決めます。（予定変更の相談には応じます。）

第10回 次世代経営者錬成講座実施要領

(一流管理職錬成講座より通算31回目、次世代経営幹部錬成講座より通算13回目)

日 時 2018年10月7日(日)～10月11日(木) ※合宿研修

合宿場所 山形県上山市 蔵王坊平高原 ライザ・ウッディロッジ

交 通 ① 到着の日は、東北・山形新幹線かみのやま温泉駅にバスを出します。
東京発8:56 → かみのやま温泉着11:28分の東北・山形新幹線「つばさ129号」
をご利用下さい。
② 現地直行の方は、12:00までに「ライザ・ウッディロッジ」に御集合下さい(山形空
港より車で1時間20分、かみのやま温泉駅より車で30分位です)。
(ダイヤ変更の可能性もありますので上記詳細は、「事前留意事項」で御案内します。)

参加対象 a 現に部長職以上にあり、将来の経営陣として期待されている方またはそれに準ずる方
b 原則として年齢40歳～60歳(45歳～55歳位が一番望ましい)
c 大学卒相応の能力があり、企業経験15年以上
d 「管理職錬成講座」修了(これまでの「一流管理職錬成講座」または「初級管理者錬成講
座」「課長級管理職錬成講座」修了)、「現代ビジネスマンの思考力」通信講座修了
上記4項目を満たす人。
(但し、以上を充足しなくても、当方で参加資格を認定した方は受け付けます。)

定 員 15人

参 加 料 300,000円(消費税別)
※5日間の合宿研修および3ヵ月間のコーチングセッション、資料代、宿泊費等含む

参加手続 参加申込書を弊社宛にe-mailまたは郵送にて送付していただきます。
原則として、申込順としますが、申込者が適当でないと思われる時は、派遣責任者に連絡の
上、変更をお願いすることがあります。

参加迄の手順

1. 申込をいただきますと、当方より会社および本人に受付の連絡をすると共に「事前留意事項」、
課題図書『企業および企業人(七訂版)』、参考図書『経営方針と経営戦略』(改訂版)、ケース
スタディー等事前課題をお送りします。
2. 上記課題に取り組むためにも1か月は準備が必要ですので、
申込確定締切り：8月末日(参加者確定のこと)
と致します。

終了時間について

以下の新幹線に間に合うように終了します。

東京・山形新幹線 つばさ144号(かみのやま温泉発14:13→東京着16:48)に間に合う
ようバスを出します。

(ダイヤ変更の可能性もありますので上記詳細は、「事前留意事項」で御案内します。)

以上

西暦 年 月 日

次世代経営者錬成講座 受講申込書

受講要領了承の上、次世代経営者錬成講座を受講致したく申し込みます。

会社	社名及び代表者名	
	住所・電話番号	〒 TEL () —
連絡責任者	所属部署・電話番号	TEL () —
	役職	
	ふりがな 氏名	
	e-mail・address	
受講者概要	受講者人数	_____人
	受講者の基本属性	記入例：部長相当資格昇格者
	受講させる目的	

※上記内容を e-mail にて info@nihon-keieikaihatsu.co.jp 宛にお送り頂いても結構です。

※上記申込とは別に以下の事項を記載した受講者リストを e-mail にてお送り下さい。

- ①受講者氏名、②ふりがな、③e-mail・address、④生年月日、⑤入社年月日、
⑥所属部署、⑦役職、⑧本人連絡先（携帯電話番号）、⑨出身大学および専攻